

昨年度の振り返りと今年度の検討の流れ

本資料は、第1回協議会および第2回協議会のご意見の要点を

＜計画改定の視点を検討する上での論点について＞

＜市民アンケートについて＞

＜施策評価について＞

＜計画構成・計画項目について＞

の4項目に整理した上で、

これに対して令和5年度整理した内容を振り返り、今年度の本協議会までに検討したものと本協議会以降に検討していく方針（案）を示すものです。

それぞれ、以下のように記載しています。

（R5年度）：令和5年度に実施した内容

（第3回）：第2回協議会以降に本協議会までに整理した内容

（第4回）：本協議会以降、第4回協議会までに検討する内容

＜計画改定の視点を検討する上での論点について＞

1. **新たな社会動向に関して、緑が使われることが重要である点を国が示した点が重要である。立川市の緑が十分使われているかという疑問があり、緑がどのように役立つか、使われるかという視点を重視すべき。【第1回協議会意見】**

- 市民アンケートで「立川市において重要と考えられる社会課題」について伺いました。（R5年度）
- 社会動向や上位関連計画を改めてレビューし、立川市における社会課題の観点から緑の基本計画に求められることを整理しました。（第3回：資料3のp6、参考資料2のp1～9）
- 公園やその他自然環境の利用の概況について、資料に追記しました。（第3回：参考資料2のp11、15）

2. **民間との連携や幅広い分野を巻き込んだ資金調達について検討すべき。【第1回協議会意見】**

- 立川市の緑の保全、創出、利活用、情報発信における民間連携の事例を追記し、今後の連携の発展に向けた課題を整理しました（第3回：参考資料2のp20）。
- 事業者による公園の創出と維持管理の推進、保存樹木や保護樹林地のある敷地の活用の促進、新たな認証制度による投資の呼び込みへの対応等、多様な分野と連携等、民間の資金をどのように取り入れることができるかを検討します。（第4回）

3. **市民への情報発信についてさらに工夫が必要である。全て行政任せではなく、自治会など地域主導で行ってもよいのではないか。【第2回協議会意見】**

- 行政における市民への情報発信の状況について整理しました（R5年度）（第3回：参考資料2のp20）。
- 来街者調査に基づき、来街者が情報をどのような媒体で把握しているか整理しました。（第3回：資料2のp5）
- 行政のみならず、民間も含めた情報発信の促進について、計画改定の視점에位置づけます。（第3回：資料3のp8）

4. **市民団体への支援に関して考えはあるか。【第2回協議会意見】**

- 市と各市民団体とのコミュニケーションや市と複数の市民団体間のコミュニケーションの活性化を通じて、支援に対する幅広いニーズを適切に把握する方法を検討します。（第4回）

5. **民有地の樹木の保全が課題である。【第2回協議会意見】**

- 民有地の樹木の保全に係る制度の現況を整理しました。（第3回：参考資料2のp11、18、19）
- 民有地の樹木を活用する取組を文献調査、現地調査によって把握しました。（第3回：参考資料2のp19）
- 崖線上の樹木、五日市街道周辺等の屋敷林など、民有地における樹林地の置かれた状況に応じた対策を検討します。（第4回）

6. **玉川上水の樹木の維持管理の方針をどうすべきか。【第1回協議会意見】**

- 玉川上水は、フェンス内の水路は東京都水道局、フェンス外の緑道部分は東京都建設局と立川市が分担して管理を行っています。緑道部分の立川市管理箇所については、市による管理手引き（案）に基づく適切な維持管理を行いつつ、東京都建設局と連携しています。（第3回：参考資料2のp12）
- 水路部分に関する、史跡玉川上水整備活用計画（東京都水道局）の改定状況をふまえ、市による管理においても重要となるポイントを整理し、今後の維持管理に反映していきます。（第4回）

7. 農地の利活用の事例を把握するとともに、常時、災害時の利活用のあり方や農地についての市民への発信方法を検討すべき。【第1回、第2回協議会意見】

- 農業振興計画に基づく、農地の経営基盤強化の取組、農業の魅力発信、農地の保全と多面的機能の周知啓発等の取組を把握しました。（第3回：参考資料2のp7）
- 地域防災計画における防災時の農地の位置付けを把握しました。（第3回：参考資料2のp8）
- 市内の農地の利活用の事例を整理しました。（第3回：参考資料2のp17）
- 周辺自治体も含め農地の利活用について情報収集を行い、市内での活用の可能性を検討します。（第4回）
- 常時の利活用、災害時の利活用についての効果的な情報発信のあり方を検討します。（第4回）

8. 公園や農地の災害時の避難場所としての機能や農地の地産地消としての機能、及び緑の存在価値に着目し、発信すべき。【第1回、第2回協議会意見】

- 農地や農産物についての市民意識を把握しました。（R5年度）
- 立川の農地や農産物についての来街者認識を把握しました。（第3回：資料2のp5）
- 地域防災計画での公園と農地の位置づけを整理しました。（第3回：参考資料2のp8）
- グリーンインフラの考え方の観点を立川市における重要な社会課題と結び付け、緑の存在価値の計画書への落とし込み方を検討します。（第4回）

9. 骨格となる緑の保全とネットワークの形成について市民に伝わるようにすべきである。具体策がわかりにくい。また、都や周辺市の上位計画や連携策の事例紹介が重要である。

【第1回、第2回協議会意見】

- 河川、崖線、街路樹による具体的な緑のネットワークの状況を把握しました。（第3回：参考資料2のp11、13、14）
- 市内、周辺自治体も含めたネットワークの考え方を統合し、今後の形成方針、対応策を示します。（第4回）

<市民アンケートについて>

10. 市民アンケートの調査票について。

緑のネットワークについて伝わるようにすべき。【第1回協議会意見】

- 市民アンケートにて対応しました。（R5年度）

市民に何ができるかではなく何が必要か聞けるとよい。【第1回協議会意見】

- 市民アンケートにて対応しました。（R5年度）
- 何が必要かについての市民意見に基づき現行計画の施策ごとの課題を抽出するとともに、これを踏まえて計画改定の視点を設定しました。（第3回：資料3のp3～6、8）

グリーンインフラの考えの下で社会課題について聞く際にはわかりやすく聞くべき。【第1回協議会意見】

- 市民アンケートにて対応しました。（R5年度）
- 社会課題についての市民意見をふまえ、社会動向や上位関連計画を改めてレビューし、立川市における社会課題の観点から緑の基本計画に求められることを整理しました。（第3回：資料3のp6、参考資料2のp1～9）

11. 市民アンケートの解釈について。

地域ごとや世代ごとなどのクロス集計をふまえ多様なニーズに対応した検討を行うべき。

【第2回協議会意見】

- 地域ごと、回答者の属性ごとのクロス集計についてのまとめを拡充しました。（第3回：資料2のp2～5）
- 地域ごと、世代ごとのニーズの違いを踏まえ、具体策を検討します。（第4回）

市民がどのような公園の規模を想像して回答していただいているかが把握しづらい。【第2回協議会意見】

- 市民アンケートの身近な公園に関する回答内容について、よく利用する公園として昭和記念公園と回答したグループとその他の公園と回答したグループを区別してクロス集計を行いました。（第3回：参考資料2のp6～7）

定住意向は、緑以外の要因も大きいのではないか。【第2回協議会意見】

- 定住意向には緑以外の要因も影響が大きいことから緑が定住意向に与える影響の分析は困難ですが、定住意向と緑に対する意識の相関関係をさまざまなクロス集計によって分析しました。（第3回：参考資料2のp3）

立川公園などは市民以外の利用も多いはずだが、アンケートでは市民以外のニーズが把握できていない。【第2回協議会意見】

- 来街者意向調査に基づき、来街者による立川市の自然環境についての認識や、公園・自然散策を来街目的とする人々の属性を把握し、計画改定の視点を設定しました。（第3回：資料2のp5、資料のp8）

＜施策評価について＞

12. 施策の評価において、とりまとめの内容が細かすぎることから、より根本的な課題を整理すべき。【第2回協議会意見】

- 現行計画に記載されている取組に対して実施できなかった内容、及び、実施はしたものの引き続き緑の保全・整備・創出・利活用の観点から課題といえる内容を整理しました。このことから、現行計画記載の取組について、実施した点、実施した上での課題、実施に至らなかった点の観点から評価を更新しました。（第3回：参考資料2のp22～23）

13. 計画策定プロセスでの他部局との連携を行わなければ、現在の連携状況からの課題しか得られないのではないか。【第2回協議会意見】

- 総合計画等をふまえて、緑の基本計画の改定において特に関連が強いと考えられる関連計画のレビューを追加し、緑分野との連携の可能性がある取組について整理しました。（第3回：参考資料2のp6～9）
- その上で、他部局との新たな連携の可能性について検討します。（第4回）

＜計画構成・計画項目について＞

14. 上位関連計画等のレビューをふまえた課題や計画改定の方針とすべき。【第2回協議会意見】

- 社会動向や上位関連計画のレビューを拡充し、これをふまえ、計画改定の視点を更新しました。（第3回：資料3のp8、参考資料2のp6～9）

15. 系統計画を意識していけるとよい。【第1回協議会意見】

- 従来から一般的である環境保全、レクリエーション、防災、景観形成の系統計画を基本としつつ、立川市における重要な社会課題の視点も取り入れた系統計画を設定することを見据え、関連計画

のレビューを追加し、緑分野との連携の可能性がある取組について整理しました。（第3回：参考資料2のp6～9）

- 設定した社会課題をふまえた系統計画を作成するとともに、緑のあり方・利活用の方法を検討します。（第4回）

16. 現行計画の方針について、方針2「緑を守り生かす」、方針1「緑と人のつながりを育み生かす」、方針3「緑の豊かさを高め生かす」の順ではないか。方針2は「守ってその恵みを活かす」表現とできるとよい。方針3は豊かさを「活かす」という表現でよいのではないか。【第2回協議会意見】

- 緑がどのように役立つか、使われるかという視点を重視がさらに重要となることから、現行計画の方針1、2、3の並びを基本とします。（第4回）

17. 計画指標について。【第2回協議会意見】

計画の指標を、質的なものを含め多様なものとできるとよい。

- 質的な指標を、緑が持つ機能を表すものとらえます。緑が持つ機能は社会課題に対応して発揮できることが望ましいことから、公園面積等の量的な指標のみならず、社会課題に対応した取組状況や緑の状況を捕捉するこのとのできる指標を検討します（例えば、子育てや健康増進の観点から、ボール遊びができるオープンスペースの数など）。（第4回）

5年程度を目安とする等、指標を細かく整理するとよい。

- 短期、中期、長期に対応した指標およびその目標値を検討します。（第4回）

指標は議会等で説明する時に必要になるが、同時に但し書き等で質的な状況にも触れ、指標が達成できなかったとしても、市民にとってより良い環境になったということを説明できれば問題ない。

- 指標設定の際には、数字では表しきれない、指標設定の考え方を明記し、今後の指標を数値として更新していく際に、これを捕捉する情報として何を把握すべきかについても示します。（第4回）

18. 維持管理については具体的な実施状況を示した上での解決策を提示すべき。【第2回協議会意見】

- 本年度中に作成予定の管理運営方針において、具体的な実施状況をふまえた管理方針を検討します。（第4回）